

千葉県立中央博物館 令和8年度 普遍研究課題一覧

普遍研究課題 1（地球誌系：地形地質学的多様性に関する基礎研究）

系	整理番号	研究タイトル	代表者名	分担者名	研究内容（300字以内）
地球誌系	1	微小化石に基づく貝類化石の分類及び古生態の研究	伊左治 鎮司		白亜系の軟体動物化石（特に淡水生種、汽水生種）について、微小種を中心にその多様性を明らかにし、古生態や生息環境、古生物地理を議論する。
地球誌系	2	日本産化石十脚甲殻類の分類と古生態	加藤 久佳		主として東日本産十脚甲殻類化石の分類学的な記載を進め、化石の産状、共産する化石など古生態学的な情報もあわせて検討する。
地球誌系	3	日本列島及び関連する海外地域の花粉・環境誌	奥田 昌明		化石花粉から古気候を復元するための基礎資料として、千葉県を含む日本列島とその周辺から表層土壌を収集し、現生花粉群を洗い出してデータ化する。また、令和5年度に採択された科研費を用い、チバニアン の競合地となったイタリア2地点に渡航して、化石花粉を含んだ現地露頭を調査する。
地球誌系	4	日本列島の最終氷期以降の植生変遷	西内 李佳		最終氷期（主に2～3万年前）から現在にかけての日本列島の植生変遷を、花粉や葉、種実の化石から明らかにする。
地球誌系	5	化石種・現生種に見られるハクジラ類特有の左右非対称な内部形態の意義	丸山 啓志		ハクジラ類は脊椎動物の中でも珍しく左右非対称な内部形態（頭骨など）を有する。本研究では、幾何学的形態測定学的手法を用い、その非対称性を定量化し、その要因（機能形態学的・系統的など）を統計学的手法から明らかにする。
地球誌系	6	人新世の生物学	千葉 友樹		浅海域の堆積物（砂、泥、貝殻など）から、外来種の移入や人間活動が生態系に及ぼす影響を明らかにする。
地球誌系	7	西南日本の古第三紀から新第三紀地質体発達史の解明	菊川 照英		南西諸島から房総半島にかけて分布する西南日本外帯の古第三紀から新第三紀の地質体に関して、その層序や年代、構造を明らかにし、その地域全体の形成過程や地史を復元する。
地球誌系	8	小竹コレクションを用いた生痕化石の研究	菊川 照英		日本列島各地から採取された生痕化石のコレクションを用いて、国内の浅海～深海における生痕相の特徴や変遷を把握する。
地球誌系	9	プレート収束帯の地形発達に関する研究	山中 蜚		プレート収束運動に関連する地形発達の特徴やメカニズムを明らかにするため、日本列島を中心に、活断層の運動様式および広域変形の様式を変動地形学的手法によって調査する。

普遍研究課題 2（生命誌系 1：分類学的多様性に関する基礎的研究）

生命誌系1	1	十脚甲殻類の分類	駒井 智幸		十脚甲殻類を対象とした分類学的研究を行い、系統学的研究や生物多様性研究への基盤整備に貢献する。種同定・系統推定に重要な情報を提供するミトコンドリア遺伝子マーカー2種の配列データの蓄積を並行して進める。
生命誌系1	2	地衣類の多様性に関する研究	坂田 歩美	市民研究員、館外研究者	主として日本および周辺地域を対象として、地衣類の分類・分布、化学成分等に関する研究を行う。今年度は、（1）「日本産地衣類の総合的なデータベースの整備とウェブ公開」を継続しデジタルミュージアム「日本の地衣類（ウェブ図鑑）」等のコンテンツの充実を図り、（2）海岸など特殊環境に生育する地衣類の多様性解明、などを、市民研究員・館外研究者と協力して実施する。
生命誌系1	3	樹幹流を利用した新たな樹上生物多様性モニタリング法の開発	坂田 歩美	館外研究者	樹幹流を利用した樹上生物多様性モニタリングの新たな基盤技術の開発を行う。
生命誌系1	4	ナガカメムシ上科の分類学的研究	伴 光哲	館外研究者	数多くの分類学的な問題が残されている東アジア～東南アジアのナガカメムシ上科について分類学的研究を行い、生物多様性保全の基盤整備および応用利用に向けた有用種の探索に貢献する。
生命誌系1	5	バラ属植物の香りの研究	御巫 由紀		バラ属の野生種、オールドローズ、現代品種の香りを分析し、フルーツ香の香りの起源を明らかにする。
生命誌系1	6	魚類ミトコンドリアゲノムに関する研究	後藤 亮	館外研究者	環境DNAメタバーコーディング法は生物多様性の把握に広く利用されている。種内の変異を知りたい場合、魚類ではミトコンドリアゲノムの調節領域が使われることがあるが、まだ未決定の種も多い。本研究では未決定の種のミトコンドリアゲノムを決定する。
生命誌系1	7	アジアの低緯度地域における有鱗目の多様性に関する研究	栗田 隆気		アジアの低緯度に広がる湿潤熱帯・亜熱帯地域において、トカゲ・ヘビの仲間（有鱗目）が種を多様化させたプロセスを分類、系統、集団遺伝、生態など、様々な情報に基づいて明らかにする。
生命誌系1	8	糞ハンズ・オン標本の研究	丸山 啓志	館外研究者	様々な動物の糞ハンズ・オン標本を作成し、形態学的研究を進める。また、従来失われていた糞中の未消化物の3次元データをCTスキャンや薄片観察により、取得する。併せて、安心安全な運用のできる教育普及活動への活用も推進する。
生命誌系1	9	アリヅカムシ亜科甲虫の分類学的研究	樽 宗一郎		日本を中心としたアリヅカムシ亜科について分類学的研究を行い、ファウナを明らかにする。
生命誌系1	10	日本産エダヒゲムシ類の分類学的研究	萩野 康則		日本産エダヒゲムシ類は現在までに種名が確定しているのは約30種であるが、潜在的には100種以上が生息しているものと推定される。日本産本類を収集し調査研究し、多数の新種記載を含めて日本のファウナを明らかにする。
生命誌系1	11	海洋無脊椎動物の糖鎖生物学研究	小出 康裕	館外研究者	海洋無脊椎動物からレクチン（糖鎖結合性タンパク質）を探索し、レクチンの構造や糖鎖結合性などの特徴、生体内での局在や役割を明らかにする。
生命誌系1	12	ウミウシ類の生態学的、分類学的研究	監物 うい子		主に日本周辺の潮間帯から深海域に生息するウミウシ類の生態、形態、分子系統に関する研究を行い、多様な生存戦略や生活史等を明らかにする。また、ウミウシ類の最大の特徴である鮮やかな色彩を保存した標本を用いた教育普及活動に取り組む。
生命誌系1	13	日華区系植物の分類学的研究	山本 伸子		千葉県をはじめとする日本の多くの植物の起源は中国・ヒマラヤ地域にあるといわれている。日本の植物相の起源と成立を解明するために、分類学的観点から東アジア・ヒマラヤ地域における維管束植物の解析を行う。

生命誌系1	14	植物宿主に特異的な微小菌類の分子系統地理	梶原行人		植物宿主に対して強い選択性をもつ微小菌類について、国内からの網羅的サンプリングとSNPデータを用いた解析に基づき、分布や遺伝構造、および種分化のプロセス等を解明する。
生命誌系1	15	鯨類の骨格に関する機能形態学的研究	宮川尚子		鯨類の退化した骨盤等の形態学的研究を行い、種差や性差、成長に伴う変化を調べることで、その機能を解明する。

普遍研究課題 3 (生命誌系 2：生態学的多様性の維持機構に関する基礎的研究)

生命誌系2	1	ヤドリギ類の生態学的研究	尾崎煙雄		半寄生植物のヤドリギ類（ヤドリギ、オオバヤドリギ、マツグミ、ヒノキバヤドリギ、ホザキヤドリギ等）の分布、生態について生態学的、生物地理学的視点から研究を行う。
生命誌系2	2	水位攪乱・かいぼり等による水環境保全技術の検証	林 紀男		水位攪乱、かいぼりなどによる池の水環境保全について、その機構を解明する。併せて埋土種子等の散布体を用いて土着株による水辺植生の再生に向けた取り組みについて、地域特性に応じた留意事項を検証する。
生命誌系2	3	ジシギ類とヤマシギの生活史および分類学的研究	小田谷嘉弥		ジシギ類とヤマシギ（チドリ目シギ科）について、野外での捕獲調査や博物館標本の調査を行い、渡りや換羽等の生活史の記載および分類学的問題の解決を目指す。
生命誌系2	4	絶滅危惧植物の生息域外保全に関する生態・遺伝学的研究	浅野紗彩		博物館で行われる絶滅危惧植物の生株維持、種子保存などの生息域外保全について、現在の取り組みが長期的な保全に有効か検証し、より効果的に生息域外保全を実行する手法について検討する。
生命誌系2	5	水田・森林域に生息するカエル類の生活史および生態に関する研究	西川あい		特にカエル類の幼生期に着目し、幼生生活の可塑性に影響を与える要因や幼生期の生態的・形態的特徴の変異と変態後の生活史への関連性を明らかにする。
生命誌系2	6	水生昆虫等の分布調査と保全基盤情報の構築	内海幸弘		国内各地において、水生昆虫等を対象とした分布調査を実施する。あわせて、止水性水生甲虫類を対象とした定量的調査手法の確立を試み、群集組成に影響を与える環境要因の検討を行うことで、絶滅危惧種などの保全対象種の生息環境に関する知見の蓄積を目指す。
生命誌系2	7	魚類の初期生活史に関する研究	乃一哲久		特定の魚種、特に千葉県に生息する種に的を絞って発生や発育、幼期の生態を調査し、初期生活史を解明する。当面はアユを対象とし、市原市養老川高滝ダム上流域に放流されたアユの再生産(陸封)の可能性を調査する。
生命誌系2	8	フジツボ類の生態学的研究	村田明久		フジツボ類の生態や分布に関する研究を行い、環境との関りや群集の動態について解析を行う。

普遍研究課題 4 (人類誌系：景観史という新領域の創出)

人類誌系	1	村落構造にかかる民俗学的研究	猪野義信		地域社会における人々の暮らしやその関わりについて、年中行事や民俗資料などを中心に考察する。
人類誌系	2	近世の都市における寺社地の研究	須田華那		近世の都市における寺社地について、都市社会との関係を含めて考察する。
人類誌系	3	明治以降の学校教育と教員の様相	山口友樹		明治以降、政治的背景や思想的背景のもと変遷していく学校教育のなかで、最前線でその対応を担った教員や学校現場に焦点を当て、その様相を考察する。
人類誌系	4	日本古代の物質文化	小川宏和		日本古代における生産技術、道具と身体の関係、物をもつ象徴性について調査研究を行う。
人類誌系	5	文献史料を用いた中世の儀礼と身分秩序の在り方に関する研究	小出麻友美		中世社会における儀礼及び身分秩序の在り方や地域社会における変容について、文献史料の分析を通じて検討する。
人類誌系	6	日本列島における人類の到来と初期国家の形成に関する研究	黒田篤史		日本列島にはいつからどのような人が暮らし始めたのか、またどのようにして国としてまとまっていたのかという根源的な問題について考古学的手法を用いて考察する。
人類誌系	7	民俗社会にあらわれる「障害」に関する研究	奈良場春輝		宗教者や芸能者をはじめとする障害のある職能者、彼ら彼女らが暮らし民俗社会を対象に、教育・福祉関連資料や語りを収集しながら、民俗社会のなかであらわれる「障害」の様相を考察する。
人類誌系	8	施釉陶器の生産と流通から見た古代社会の景観復元	立和名明美	館外研究者	限られた期間限られた地域でのみ生産された様々な施釉陶器。その生産と流通のありようから、古代社会の景観復元を試みる。
人類誌系	9	律令国家による地域支配	中川由莉		官道を中心とした交通路と、官衙、国分寺・国分尼寺といった寺院や神社など地域の中心となる諸施設から、律令国家が考えた地域支配の様相を検討する。
人類誌系	10	民具と自然環境	武知邦博		民具には形状や材料などその地域に応じた特徴が見られることがあり、民具を通して人と自然について研究する。
人類誌系	11	信仰習俗にあらわれる器物と神性	鈴木建人		道具・供物・神体など、信仰習俗の中にあられる器物に対する認識の在り様を調査し、神性の変容について考察する。

普遍研究課題 5 (博物館誌系：博物館の歴史および機能の充実・発展に関する基礎的研究)

博物館誌系	1	学校に保管されている自然誌標本の実態把握と活用方法開発に関する研究	斎木健一		高等学校等に保管されている自然誌標本の保管状況を調査し、学校および博物館における、これらの標本の活用方法を検討する。
博物館誌系	2	展示や展示物のイメージに関する基礎的研究	丸山啓志	館外研究者	来館者が展示や展示物に対して抱くイメージを知することは、企画展や常設展更新を検討する上で有用である。また、幅広い層の来館者の満足度を上げる工夫を考える指針となる。本研究では、①展示の第一印象とイメージの変遷に関する研究、②多様な来館者にやさしい展示に関する研究、③「クジラ・イルカ」を例とした展示物に対する研究、以上3つの課題を基に多角的に取り組む。
博物館誌系	3	来館の難しい人が博物館を楽しむための、チバニアンを用いた地域教育プログラム開発	丸山啓志	中野貴史・館外研究者	これからの博物館の役割に社会や地域の課題への対応が望まれている。とりわけ、様々な要因によって来館の難しい人がおり、アクセス可能なプログラムを開発する必要がある。そこで、千葉県下で知名度が高い「チバニアン」というテーマで、アクセシビリティの高い地域学習プログラム開発に取り組む。

博物館誌系	4	博物館の自由研究支援事業の効果に関する研究	水野大樹		学校と博物館が連携した事業の一例である自由研究支援事業を対象として、学芸員による助言指導が児童・生徒の学びにどのような効果をもたらしているか明らかにする。
博物館誌系	5	博物館と学校との博学連携による博物館学習の推進に関する研究	中野貴史	丸山啓志	先進的な博物館の学校教育対応と展示環境の調査を通して、博学連携による博物館学習及び学校教育に対応した博物館展示のあり方について研究する。博物館の学校利用の現状を分析し、実態に即した博物館学習と展示改善を推進する。
博物館誌系	6	明治期から戦前にかけて収集された哺乳類標本の保管状況に関する研究	下稲葉さやか		日本では、明治期に近代的動物学が欧米より取り入れられて以降、多くの標本が制作・蓄積されてきた。戦前に収集された哺乳類標本を中心に保管状況を調査し、それらの標本の収集・移管・損失の経緯を明らかにする。
博物館誌系	7	千葉県近代博物館史に関する調査研究	幅 大		昭和40年代の県立博物館整備開始以前の近代博物館について調査研究を行い、地域社会における博物館の役割について歴史的に考察する。
博物館誌系	8	博物館展示手法に関する研究	二葉俊弥	立和名明美・ 宮川尚子・ 伊左治鎮司	国内外の博物館等施設における様々な展示手法・展示装置について調査し、展示における最新技術を研究することで、魅力的・効果的な展示を探究する。先進的な事例を研究することで、訪問者の興味や理解を深め、誰もが利用しやすい博物館環境の整備について検討し、中央博物館に適した展示手法や装置を明らかにする。